

さらし井(児玉郡美里町)

正面にさらし井がある





社殿がある



標柱に「史蹟 曝井」とある



そばにはいくつもの記念碑が立つ







旧跡 さらし井

〔埼玉県指定 昭和三十六年九月二日〕

さらし井は、大字広木の粉木川の端に岩石で囲まれた井戸である。往古、織布を洗いさらすために使用した湧水で、ここでさらされた布は、多く調庸布として朝廷に献納されたと伝えられる。

万葉集巻九に恋歌「三栗の中にめぐれる曝井の絶えず通わんそこに妻もが」とある。

美里町教育委員会

ここは、いかなる早魃かんばつにもかれることなく、千数百年の昔から湧水がさらさらと流れ、当時の婦人達の共同作業場でもあり、又、恋歌にもあるように悩みを訴え愛を語る社交の場でもあったことがうかがえます。

ここより、西二〇〇m先に妻である真足女またりめが夫を思慕し詠んだ万葉歌碑があります。当時を思い浮かべながら観光ルートの一つとしてごゆつくりと散策を楽しんで下さい。

美里町観光協会



これが、さらし井の跡





参考ホームページ

<http://www.town.saitama-misato.lg.jp/admini/towninfo/culture.html>

